



エフピコ環境基金
The FP Corp. Environment Fund

エフピコ環境基金 2025年度 通期報告書

<https://www.fpc.co.jp/esg/environmenteffort/environmentalfund.html>

■能登半島復興特別枠

特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所（石川県）

■一般枠（環境保全活動）

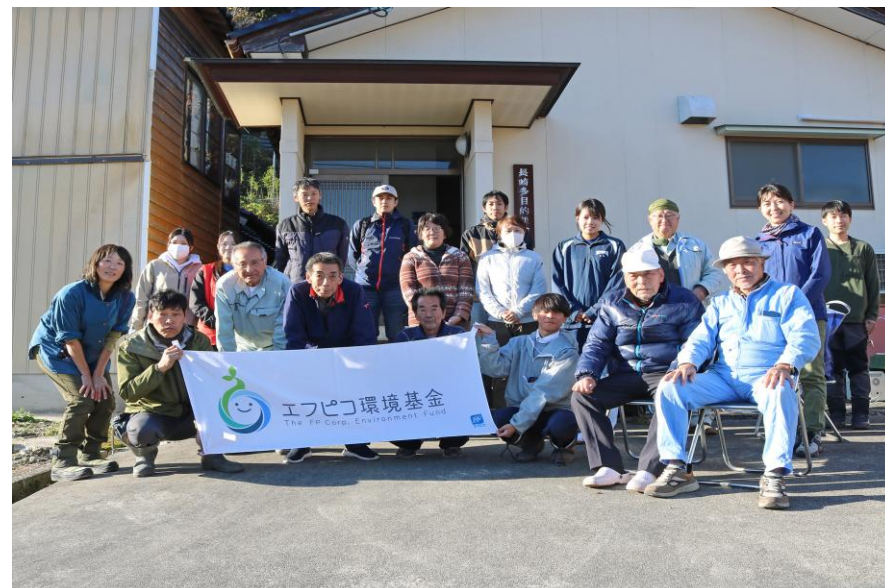
気仙沼本吉サーフィングクラブ（宮城県）
特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊（神奈川県）
NPO法人 Gomi-Map（東京都）
特定非営利活動法人
荒川クリーンエイド・フォーラム（東京都）
瀬戸内海宇治島クラブ（広島県）
ひかりエコメイト（山口県）
特定非営利活動法人 こが里山を守る会（茨城県）
特定非営利活動法人 ジョイライフさやま（埼玉県）
公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金（熊本県）
特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所（石川県）
大阪府立みどり清朋高校 地域貢献部

■一般枠（環境教育・研究活動）

逆川こどもエコクラブ（茨城県）
特定非営利活動法人 棚田LOVERS（兵庫県）
公益財団法人
みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（宮城県）
NPO法人 SDGs Spiral（福岡県）
兵庫県立明石北高等学校 科学探求部生物班（兵庫県）

河北潟湖沼研究所（石川県）

能登半島地震の被災地、七尾市能登島長崎町で、復興応援の活動を行いました。以前より地域の里山保全と再生、地域の自然資源を生かした特産品づくり等に取り組んできた地域です。ここで特産品の塩を作っている小屋の屋根修繕のための茅の刈り取り作業、竹での間垣づくり作業の応援活動を行いました。活動前には、参加ボランティアの理解が深まるよう、当地の地震被害、地震前にどのような保全活動に取り組んできたかについても紹介しました。また炊き出しを行い、地元の方とのお食事交流会を実施しました。高校生、大学生から社会人まで様々なボランティアが参加し、地元の方から能登島の美味しいものや思い出話などをお聞きしながら交流を深めました。



気仙沼本吉サーフィングクラブ（宮城県）

事業名：みんな集まれ♪ホヤぼーやビーチクリーン！
-4海水浴場海開き前一斉海岸清掃-

開催日時：7月6日（日）

参加者：100人（一斉清掃した4海岸合計245人）

内容：海開き前に気仙沼市の全海水浴場4箇所を一斉清掃。

大谷海水浴場では、小中学生をターゲットに海岸清掃の新規層獲得アクションとして、気仙沼市ゆるキャラ「ホヤぼーや」とコラボした【みんな集まれ♪ホヤぼーやビーチクリーン】を開催。拾ったゴミと交換で、ホヤぼーやと写真撮影やトランポリンが遊べる内容となっている。

特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊（神奈川県）

活動実施日：4月6日（日）

参加者：隊員7人・ボランティア0人

内容：「東京湾の富裕ごみ回収でマイクロプラスチックゼロ作戦」活動コース神奈川県横浜港方面を実施

活動実施日：5月11日（日）

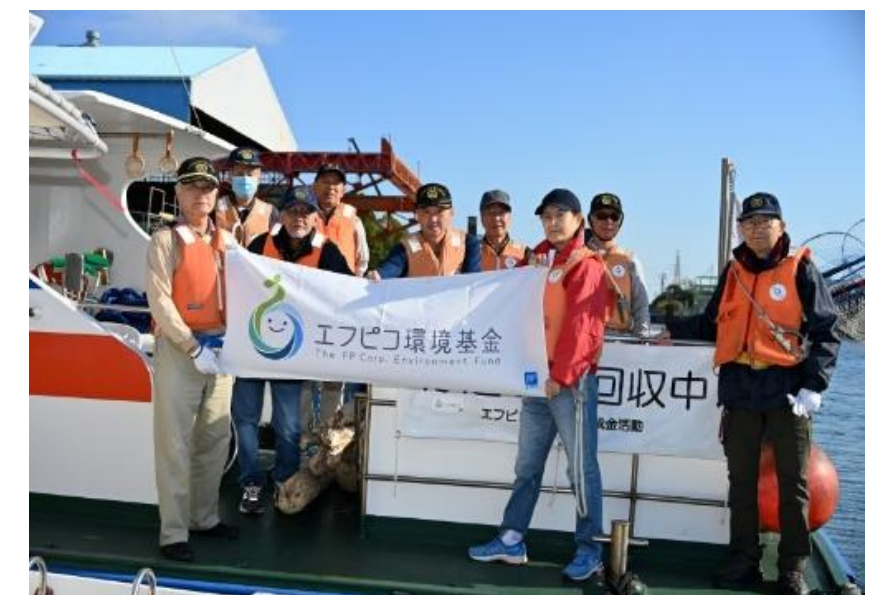
参加者：隊員8人・ボランティア2人

内容：東京湾千葉県保田漁港方面コースの浮遊ごみ回収活動

活動実施日：11月15日（土）

参加者：隊員9人・ボランティア1人

内容：東京湾神奈川県横須賀沖方面コースの浮遊ごみ回収活動



NPO法人 Gomi-Map（東京都）

江の島でのビーチクリーン活動には、多国籍の参加者が集い、国際色豊かなイベントとなりました。
一見きれいな海岸も、実際に回収されたごみの多くは1cm以下の細かなプラスチック片（マイクロプラスチック）であり、その回収の難しさとともに、深刻なプラスチック汚染を実感しました。
この経験から、ごみを排出する前の段階での適切な分別やリサイクルへつなげることの重要性を強く再認識しました。また、リサイクルスポットを可視化する私たちの「Gomi-Map」アプリの有用性や、日常生活でのリサイクル行動促進の仕組みが不可欠であることを深く理解しました。



特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム（東京都）

淀川水系見える化ページには2026年4月3日現在で延べ4.2万人（延べ）の活動が記録されている。
関西圏に拠点がある企業を対象とした河川／海洋ごみ問題に関する相談を受付けた。
荒川河川敷にて立教大生が運営する荒川清掃を実施した。
エフピコ社と荒川クリーンエイド・フォーラムの取組についても紹介した。

HP URL

<https://cleanaid.jp>

<https://fpco-yodogawa.pages.pirika.org/>



瀬戸内海宇治島クラブ（広島県）

開催日時：7月21日（海の日）

参加者：170名 スタッフ17名

内容：海の日にフェリーをチャーターし、無人島の宇治島に渡り砂浜に漂着したゴミを参加者全員で清掃を行った。また、子供達やその両親を対象に中国地方整備局が「環境学習」として、瀬戸内海における海面浮遊ゴミの現状や海洋環境整備事業を紹介した。

開催日時：3月29日

参加者：7名

内容：サルスベリの苗木90本の植樹を行った。定期的に植樹を行うことにより、緑豊かな島づくりを目指している。



ひかりエコメイト（山口県）

1）島田川流域の小学校と中学校計7校で 関連団体と連携して 川と海を結ぶ海洋プラスチックごみ削減の出前授業を実施しました。

2）島田川と虹ヶ浜海岸の生きもの観察会と漁協のご協力を得て稚魚の放流などを光市内小学校3校で実施しました。

3）流域の市民を対象に島田川河口の干潟で清掃活動と生きもの観察会を実施しました。

4）地域の企業・自治会等と協働で虹ヶ浜海岸に繁茂するクズと特定外来植物の除去作業と海岸の清掃活動をしました。

5）「川と海を結ぶ」をテーマに市民を対象に講演会をしました。

6）市民や県民を対象に展示会や交流会で展示や活動報告、海洋プラスチックごみ削減の啓発活動をしました。



こが里山を守る会（茨城県）

5/18、市民・地元の上大野小学校全校生徒参加の観察会を実施、新緑の中で第12回の里山観察会及び新緑の森の中の市民参加によるコンサートの開催、400名参加。

会員の定例活動月2回において、下刈・立ち枯れ木伐採活動を展開した。

児童参加の里山体験活動は、山野草の観察・里山に樹生している山栗拾い活動を展開した。

観察会の参加者は、現状における里山の樹勢環境(コナラの害虫被害の多発)に驚嘆、コナラの全滅を危惧していた。



ジョイライフさやま（埼玉県）

2018年から2026年の8年間をかけ、荒れ果てた水辺の林を再生するボランティア活動が続けています。

人の背丈ほどの萱を刈り、木々を剪定することで、石ころだらけだった林は曼殊沙華や甘い香りのアカシアが咲き誇る、人々を魅了する交流の場へと変貌しました。この活動こそ、汗水流すボランティアとしての大きな喜びと楽しさです。

今後は、さらに多くの花々が楽しめるスポットを創出し、ポイ捨てや漂流ごみの清掃も推進します。単なる景観向上だけでなく、防犯、生態系保全、コミュニティー活性化、環境意識向上を目指し、「ごみの捨てにくい景観」を創出し、里川の自慢できる自然を未来へ繋ぎます。



公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金（熊本県）

アマモの普及啓発として、A4カラー10Pのパンフレット2,000部を作成・配布しています。空中・水中ドローンでアマモ場を調査し、鹿島建設上席研究員による出前授業で専門性を向上。福浦湾からのコアマモ移植やポット植えによる植栽も継続しています。

活動資金確保のため、JBE認証「Jブルーレジット」31トンを企業向けに販売し、2026年度中に19社から約313万円を確保予定。また、アマモ場再生と並行して、海岸に漂着したプラスチックごみ清掃も実施し、包括的な海洋環境改善を目指しています。



河北潟湖沼研究所（石川県）

2025年4月20日、河北潟の湖岸や周辺の川・海岸10地点で、地域住民の協力のもとごみ拾いを実施しました。能登半島地震によって被害を受けた道路や堤防周辺でも活動し、5.56トンものごみを回収。内容調査も行い、ごみの状況が把握できました。

2025年11月15日、「ごみ拾いラリー」の一環として河北潟流域の田んぼの土水路で清掃活動を実施しました。地元の方々と協力し、はびこる外来植物除去と合わせてごみ拾いを行い、28人の参加で約22m³の外来植物と37kgのごみを除去。土水路はすっきりときれいになりました。



大阪府立みどり清朋高校 地域貢献部

日頃より地域に根ざした多様なボランティア活動を継続して行っている。

特に、生徒が主体となって企画・運営する「中河内戦隊セイホウジャー」によるヒーローショーは、子どもから高齢者まで幅広い世代に好評で、地域交流の活性化に寄与している。

また、恩智川における清掃活動や水生生物の生態調査を通して地域の自然環境への理解を深めるとともに、移動水族館の実施により「知る・見る・ふれる」体験型の環境保護啓発にも取り組んでいる。これらの活動を通して、生徒の主体性と社会貢献意識の育成を図っている。

逆川こどもエコクラブ（茨城県）

- 1)夏休みエコ遠足 8月5日合計39人
- 2)偕楽園ホテル 茨城新聞デジタル動画 6月18日茨城県職員など12名
- 3)ホテル再生活動 6月1日62名
- 4)千波湖ビオトープ 6月8日 224名
- 5)霞ヶ浦外来魚回収 4月～9月で9回開催 延べ86人
- 6)逆川の生きもの学習会 9月7日 112名
- 7)涸沼ハゼ釣り学習会 9月6日・20日、10月4日 延べ216人
- 8)ホテル再生活動(秋) 10月19日 76人
- 9)環境壁新聞作成 11月8日・30日開催延べ46人 17作品作成
- 10)エコプロ2025 12月12日事務局3人メンバー17人
- 11)脱炭素チャレンジカップ2026 12人
- 12)千波湖と涸沼野鳥観察会 12月～2月 延べ4回 合計231人
- 13)こどもエコクラブ全国フェスティバル2026 東京国際オリンピック青少年総合センター 34人



特定非営利活動法人 棚田LOVERS（兵庫県）

《社会的意義》

昨年の参加者がリーダーとなり、自然体験や環境教育を通じ地域の魅力を伝え、プラスチック知識も学習。棚田再生に繋がる環境保全や地域活性化にアプローチする試みは、社会的意義が大きく今後の先進事例となっている。

《活動スケジュール》

兵庫県市川町の自然フィールドや古民家

- 1)5月24日、25日、6月15日：田植え等体験（54名）
- 2)7月12日：棚田でのどろんこレスリング(12名)
- 3)10月26日、27日：棚田子育てフェス2025(88名)
- 4)12月27日：収穫祭・餅つき(12名)
- 5)3月8日：活動報告会（35名）



公益財団法人

みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（宮城県）

「みやぎのSDGs環境学習支援」として二つの事業を展開。SDGs環境出前講話では、キリバス編、南極編など3種の講話を宮城県内34校で実施し2,170名が受講。SDGs教育プロジェクトでは、仙台市内の小学校など8団体348名を継続支援し、4か所に設置したグリーンカーテンは大きく成長し、効果を上げている。

○ウェブ教材「わたしたちのSDGsライフスタイル～家庭でできる54個の行動～」 <https://stopondanka.com/>

- ・取り組み人数838名
- ・みなしCO2削減量847t318kg-CO2(1家庭あたりCO2削減量1,011kg-CO2)
- ・みなし節約金額6,132万4,500円(1家庭あたり7万3,180円)



NPO法人 SDGs Spiral（福岡県）

「竹林整備」

①6月8日（日）②11月29日（土）116人、スタッフ27人
福岡県北九州市の放置竹林の整備に子どもと大人と一緒に
取り組み、放置竹林の現状や活用方法について考える。

「海岸清掃」

①10月18日（土）②11月22日（土）86人、スタッフ22人
子どもと大人と一緒に海岸清掃に取り組み、合計約1950kg
の海洋ゴミを回収した。

「万華鏡づくりワークショップ」

①6月28日（土）②3月24日（火）70人、スタッフ22人
山と海の課題についての学習、放置竹林の竹と海岸清掃の
海洋ゴミを使った万華鏡づくりワークショップを実施した。



兵庫県立明石北高等学校 科学探求部生物班（兵庫県）

1枚目写真：クビアカツヤカミキリの調査

2022年に兵庫県で初めて本校周辺の石ヶ谷公園で特定外来
生物のクビアカツヤカミキリが発見されて以来、行政・専
門機関と連携して継続的に調査を行っている。現在まで合
計5,000本以上のソメイヨシノやウメの樹木を調査した。

2枚目写真：ネビキグサの調査

明石市の絶滅危惧種（レッドリストAランク）であるネビ
キグサの保全を目的とした研究を行っている。本種は種子
を作るが、発芽が全く確認されていない。私たちは種子が
発芽する条件やなぜ発芽しないかについて研究している。
本種の生育しているため池で、小学生対象の自然観察会も
実施している。

